

郵便局の風景印に表されている風景資産・文化資産に関する調査研究

○弥政麻佑子 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：風景印、郵便局、観光資源、地域資源

風景印（風景入り通信日付印）とは、郵便局・日本郵便局支店に配備され、局名・支店名と年月日欄とともに、当該局・支店近辺の名所旧跡等にちなむ図柄が描かれている消印の一種である。1931年7月7日に制度が創設され、同年7月10日に富士山郵便局と富士山北郵便局で使用が開始された。その後の日本の統治下にあった関東州・樺太・台湾でも使用開始となり、その後も観光地を中心に1,200局以上に配備された。現在においては全国の郵便局の半分弱のおよそ1万局が所有している。それらの歴史や郵便局の消印であること、また、一度使用が開始されると廃止の広報が行われるまで半永久的に使用されることから、描かれている名所旧跡は地域の重要な観光要素といえる。

そこで、東京都23区に郵便局を対象に、配備されている風景印の数や描かれている観光資源といえる風景・文化資産を抽出・分類・分析、また、風景印を配備している郵便局とその風景印に描かれている観光資源との物理的距離や位置関係を分析した。これにより、地域レベルで認識されている（あるいはアピールしている）観光資源あるいは地域資源としての風景資産・文化資産の傾向や度合いが把握された。

利用者の地域情報に基づいた歩くルートマップの作成

○柏崎智之 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：ウォーキング、地域の名所、穴場、ルートマップ、再発見

近年、中高年者を中心に健康への関心が高まり適切な運動としてウォーキングが注目されている。ウォーキングは身体への負担が軽減できるだけでなく、年齢に関係なく手軽に行えるスポーツとなっておりと同時に風景や名所を巡りながら行うことができる。日本には、昔ながらの日本独特の地域に愛される場所が数多くあり時代に関わらず昔の姿のまま現代も存在している。しかし、時代の移り変わりとともに伝えていかなければならない地域の風景や名所を若い世代と文化の共有ができていないと考えられる。

そこで、東京都狛江市を通る小田急線の喜多見駅、狛江駅、和泉多摩川駅周辺を起点として、その地域で歩いている人にヒアリング調査をすることで地域の名所やガイドブックには載らないような穴場を把握し、歩くルートマップ作成を目的とした。具体的には、男女別、年齢別（39歳以下、40～64歳、65歳以上）にした利用者の参考になるルート内に、地域の方が大切にしている場所、地域住民が薦める飲食店や公園などの休憩場所、緑道や遊歩道を紹介し、トイレや案内板、バス停の位置などにも配慮した地図を作成した。